MIC 情報通信 vol.31

（2011年1月発行）

Moody グループは おかげさまで 100周年を迎えました

100th 1911-2011

MOODY INTERNATIONAL

100 Years of Global Expertise and Local Presence

発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社 大阪事務所

◇MIC情報通信のバックナンバーは弊社HP（http://www.moodygroup.co.jp）でご覧頂けます。

新年 明けまして おめでとうございます

代表取締役 **坂井 喜好**

昨年中は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

Moodyは2011年、創業100周年を迎えます。これもひとえにお客さまのご支援の賜物と、心より感謝いたします。

当社は現在の日本橋（東京都中央区）の完成と同じ明治44年の1911年に、アメリカで第三者検査・第二者審査機関として産声を上げました。1948年、初の海外支社を日本に設立し、その後も次々にグローバル市場に展開していく中で成長期、発展期、拡大期を経て、2011年の今年、100周年の節目を迎えました。今年は次の100年に向けた再起動の年、「第二の創業元年」の幕開けとも言えます。

この100年の間に先人が積み重ねてきた検査・審査技術や、営々と培われてきた企業文化・企業風土、知的財産、DNAという無形資産は、次代に受け継いで行きたいかけがえのないものです。しかしその伝統に安住することなく、新たな時代に向けて、お客様の企業価値創造と日本産業の発展のため、ひいては国益につなげるため、この惑星の未来を支えるために常に革新を続け、切れ味や能力を“研”き続け、驕り高ぶることなく、エクセレントカンパニーの頂点を目指し、新たな成長を実現させて参る所存であります。

「研」－みがく心で
坂井 喜好 書

次の100年先にある、検査・審査サービスの未来に向けて、Moodyは続きます。

今後も変わらぬお引き立ての程をお願い申し上げますと共に、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

CONTENTS

1 新年のご挨拶

2 特集 マネジメントシステムと企業経営
3 ー経営者のためのISO9001再入門ー

4 PickUp＆MICニュース
- ●JISマーク表示制度の登録認証業務紹介
- ●世界のISO認証件数が発表
- ●ISO26000：2010発行

5 審査の現場から
- ●お客様紹介（BASFポゾリス株式会社）
- ●連載よみもの「審査員の心理」（環境編）

6 連載よみもの
- ●MICリレーエッセイ「見えない世界へようこそ」（審査員 小林 基比古）
- ●環境よみもの「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り
- ●「変化に対応、進化に挑戦」株式会社サンアイインターナショナル
- ●「『安全』と『海洋環境保護』の実践で社会へ貢献」三洋海事株式会社

8 研修コースのご案内
- ●ちょっといっぷく
- ●コースのご紹介/受講生からのお便り

特集

マネジメントシステムと企業経営

ー経営者のためのISO9001再入門（その1）ー

ISOシステムを経営改善のツールとして活用しておられる組織がある一方、逆に負担になったなど、システムを効果的に運用できず、その活用法に悩まれている組織の声もよく聞きます。ISO規格は、マネジメントの枠組みを示したものであり、それを企業活動にどう取り入れていくのかは、個々の組織の取り組み方で大きく違ってきます。今号では、次号にわたりマネジメントシステムと企業経営について取り上げます。現在のシステムを見直したり、異なる視点で見てみると、新しい発見や問題解決の糸口が見付かるかもしれません。システム活性化へのヒントにして頂けましたら幸いです。（編集部）

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社　主任審査員　松田 浩男

ISO9001の認証を取得したけれども、「思ったほどの効果が出ない」と考えておられる経営者の方も多いのではないでしょうか。そういう悩みを持っておられる方々を対象にした「ISO9001再入門コース」2回シリーズです。

ISO9001認証取得に必要な条件

この国際規格の目指していること－認証取得のために必要な条件－は、図表1の2つの項目になります。最初の項目が「品質保証がきちんとできる」ということで、お客様に安心して発注いただけるための条件ですね。認証を取得して、維持審査にも継続して対応していればこの条件は満足されるはずで、だから「認証書」が維持されるわけです。

[図表1]
ISO9001規格の目的（認証登録の条件）

□ **品質保証**
お客様から受けた注文を、お客様に約束した品質、納期、価格で納める（提供する）ことができる。

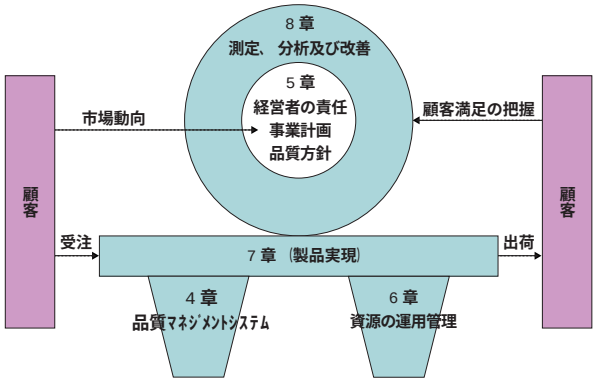
□ **継続的改善**
自社の仕事の仕組みを、狙った通りの製品・サービスが間違いなく提供できるように改善を続け、結果としてお客様にもっともっと満足いただけることを目指す。

2番目の項目は、「継続的改善を続けて、顧客満足を高めます」という項目です。こちらの方は、初回審査に合格した状態を維持すればいいというものではありません。認証取得後も、努力を継続して自社の仕事の仕組みをレベルアップしないといけないわけです。「思ったほどの効果が出ない」場合には、努力の程度が足りないか、やり方に問題がある場合が多いように思います。

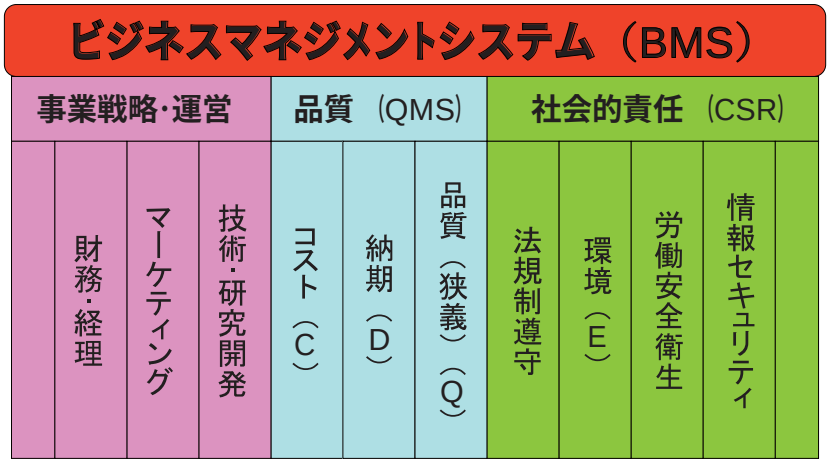
ISO9001の仕組み

図表2が、ISO9001の仕組みです。「顧客に始まり、顧客に終わる」という考えで、引合い・受注から出荷・納品までの仕事のやり方を規定した7章、それを支える4章（文書関係）と6章（資源関係）、司令塔（経営者）

[図表2]
ISO9001の仕組み



[図表3]
ビジネスマネジメントシステム
全体の中でQMSを考える



である5章、必要な情報を収集し改善を行う8章ということになります。

企業を運営管理していく活動とISO9001

一方、企業を運営管理していく活動（マネジメント）には、9001に含まれていない活動がたくさんあります。図表3を見てください。「ビジネスマネジメントシステム(BMS)」にはたくさんの要素があり、経営者の方は日夜そのために努力されているわけです。

ISOのマネジメントシステム規格も、品質以外に、環境の14001、労働安全衛生のOHSAS18001、情報セキュリティの27001といろいろ出てきました。図表3の右側に並んでいるこれらの規格は、法規制対応も含めて、広く言えば「企業の社会的責任」を果たすために守らなければならない、「制約条件」だと言えます。左側には、事業戦略・運営に関する項目が並んでいます。中央に位置するのが、ISO9001で、この規格は「制約条件」ではなく、顧客に提供する製品・サービスの品質を維持・向上させるための、いわば「攻めの規格」です。企業は制約条件を守らなければならないことは当然だけれども、それによって収入を得ているわけではありません。あくまで、顧客に製品・サービスを提供することによって収入を得ているので、9001が中核であることは間違いありません。

問題は、このISO9001に、左側の「事業戦略・運営」に関する項目（要求事項）が抜けていることなのです（図表4）。（次号に続く）

[図表4]
ISO9001：2000、2008の規格構造上の欠点

- **純粋に経理・財務的な側面は別にしても、 企業活動として重要な以下の側面が欠落している。**
  - **－自社の強み・弱みの把握と事業戦略の策定・展開**
  - **－マーケティング**
  - **－受注のための営業活動**
  - **－研究開発**
  - **－生産技術**
  - **－生産管理**
  - **－効率**
- **規格側の言い分：それは企業が BMS として考えるべきこと**
- **受審組織側の誤解：上記のような活動は規格の要求事項にないから、 従来通りやっていれば良い別な活動だ**

松田 浩男 （まつだ ひろお）
MIC品質主任審査員、ISO/TS16949コンサルタント。
東京大学理学部化学科卒業。新日本製鐵及び関連会社にて、基礎研究、製品企画・開発、品質設計・品質管理、品質保証に従事。東京都西東京市在住。

PICKUP

～業務紹介～

JISマーク表示制度の登録認証業務 -レディーミクストコンクリート-

MICでは、ISOマネジメントシステムのシステム認証業務に加え製品認証も行っております。平成17年（2005年）に経済産業省よりJISマーク表示制度の認証機関に登録され、現在、レディーミクストコンクリート（生コンクリート、JIS規格A5308）の認証登録業務を行っております。今号では、このJISマーク表示制度の認証業務についてご紹介させて頂きます。

◎JISマーク表示制度とは？

JIS（日本工業規格：Japanese Industrial Standards）は、製品の種類や寸法、品質・性能や安全性、それらを確認するため試験方法などに要求される規格値や基準を定めた「日本工業規格」の称号です。JISマークは現在、様々な鉱工業品に表示されていますが、これはその製品が該当するJIS規格に適合するものであることを示すものです。

工業標準化法の改正により、平成17年10月1日より新しいJISマーク表示制度＝「民間認証機関による認証」がスタートしました。製品にJISマークを表示する場合、国の登録を受けた第三者認証機関の認証を取得する必要があります。また、認証取得後は、3年ごとに認証維持審査を受ける必要があります。

◎MICが国内規格“JIS”に取り組んだのは・・・

ISOマネジメントシステム規格を取得されているMICのお客様には、多くの建設会社様があり、生コンクリートが建設資材として使用されています。MICはISO認証業務の経験を活かし、“日本の建設業界への寄与”を目指して、JISマーク表示制度の認証機関としてJIS規格5308レディーミクストコンクリート（生コンクリート）の製品認証について登録認定を受けた外資系認証登録機関です。

◎JIS認証取得までは、どのような流れになっていますか？

自社製品にJISマーク表示を希望する場合、その製品認証を取得します。そのために、まず登録認証機関を選択します。その後、見積→申請→適合性調査→JIS登録審査→JISマーク表示→認証維持審査（3年ごと）といった流れになります。

◎MICでJIS認証の特徴は？

1. 審査費用

経費を最小限に抑えたリーズナブルな審査料金です。

例）普通コンクリート1社1工場：品質管理体制基準A※の場合
審査料14万円＋認証維持料6万円（3年分）

※基準A：ISO9001を取得していない場合

2. 審査

MICの審査員はお客様のビジネスパートナーです。
ISO認証審査の経験も豊富なJIS審査員も多くおり、形式よりも現場で活かされるJISの運用に視点をおきながらお客様の自主性を尊重した審査を心がけています。

3.申請手続き

認証登録申請に関する書式類が簡素化されています。弊社HPもご参照下さい。（http://www.moodygroup.co.jp/mic_jismark.htm）

＊お見積・お問合せは弊社東京営業部（03-3669-7435）まで。
営業スタッフが訪問説明にお伺い致しますので、お気軽にご用命ください。（認証機関の変更も可能です）

NEWS

世界のISO認証件数が発表

ISO（国際標準化機構）中央事務局は、昨年10月、2009年末時点での世界のISOマネジメントシステム認証取得件数について集計・調査した“The ISO Survey of Certifications－2009”を公表しました。

調査によると、ISO9001（品質）の認証総件数は、前年比8%増の1,064,785件で、今回初めて100万件を上回りました。件数順では、中国（257,076件）、イタリア（130,066件）に次いで日本（68,484件）は第3位となっています。ISO14001（環境）の認証総件数は223,149件（前年度比18%増）。日本（39,556件）は、中国（55,316件）に次いで第2位です。

その他、ISO27001（情報セキュリティ）の認証総件数は12,934件（同40%増）で、日本は、前回に続き第2位のインド(1,240件)を大幅に上回る5,508件で第1位。今回が3回目の調査となるISO22000（食品産業）の認証総数は13,881件(同69%増)。件数順に、1位中国、2位トルコ、3位ギリシャとなっています。この調査の詳細については、ISOのホームページでご覧頂けます。（http://www.iso.org/iso/survey2009.pdf）

ISO26000:2010発行

2010年11月1日、組織の社会的責任（SR）に関する国際規格ISO26000が発行されました。規格制定に向けての作業は2005年より開始されましたが、準備会合も含めると約10年の審議期間を経ての発行です。その間、社会的責任は企業に限らずあらゆる組織にかかわるものであるという観点から、当初のCSR（Corporate Social Responsibility）からCを取ったSRとなりましたが、いまや社会的責任は、企業経営に欠かすことのできない重要な要素になっています。

ISO26000は、組織の大小や規模などに関係なく、あらゆる種類の組織を対象にしており、社会的責任についての原則や主要課題などが規定されています。また、この規格は、ガイダンス（指針）規格となっており、ISO9001やISO14001などのように第三者認証を必要とするものではありません。しかし、これからCSRに取り組む組織へのガイドとして、また社会的責任についての国際レベル共通の手引きとして、多くのヒントを与えるものと期待されています。詳細については、ISOのホームページをご参照ください。（http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1366）

お客様紹介

審査の現場から

BASFポゾリス株式会社 様

(ISO9001:2008 認証登録)

MIC審査員　美濃 英雄　*Hideo Mino*

BASFポゾリス株式会社様は、六本木ヒルズ森タワーに本社を置かれ、生産拠点を茅ヶ崎市および堺市をはじめ全国18カ所に、研究開発拠点を茅ヶ崎市に構えられています。15年前にISO9001を取得、2007年に他審査機関からMICに審査機関を変更されました。組織全体、特に品質保証部門ではシステム改善に対する強い意欲を持って取り組まれており、審査では、実用本位に構築された無駄のない文書をはじめ運用しやすい効果的なシステムが確認できます。

同社は国内有数の建設化学会社として、コンクリート用化学混和剤製品を中心に、高性能無収縮材、コンクリート用補修材・保護材、コンクリート用高性能床材、防水材などの建設用諸資材を製造・販売されています。各種製品の中でも、コンクリートの品質を改善・強化する上で必要不可欠なコンクリート用化学混和剤事業の分野では、国内で過半数のシェアを占めるトップサプライヤーとして、業界内において指導的な役割を果たされています。同社製品は、明石海峡大橋、東京湾アクアライン、レインボーブリッジなど、日本国内の様々な重要構造物に使用されています。

茅ヶ崎工場

また同社は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーであるBASFグループの一員であり、グループがグローバルに展開している建設化学品事業のアジアパシフィック地域における中核的な戦略拠点として機能しているとのこと。昨年創立50周年を迎えられ、更なる事業展開に向けた同社の益々のご発展を期待します。

http://www.pozzolith.basf.co.jp/

連載読み物

審査員の心理

第5回　(環境編)

「事前訪問　その5」

MIC 環境主任審査員　大村 敏夫　*Toshio Omura*

事前訪問から戻りましたら報告書の作成にかかります。この報告書はお客様にも提供されますので、事前訪問時にうかがったことと異なることがあってはなりません。報告書作成中に不明確であったことは電話で確認することもあります。お客様に提供後、ご指摘をいただいて修正することもあります。

事前訪問報告書は、今後の毎回の審査でも審査員に提供される情報として活用されますので、数年後の審査の際、他の審査員が目を通しても、その組織の概要が把握できるようなものでなければなりません。

事前訪問調査報告書は、システム構築中での組織とサイトのレビュー記録とも捉えられます。数年後に見直して、当時に比べてどこが改善されたか、確認されても良いかもしれません。私の経験上、これまで、事前訪問にて観察された事例としましては以下のようなものがありました。法に適合しない焼却炉の使用や野焼きの実施(その痕跡)、廃棄物と資材の混在、廃棄物の散乱、油の流出による土壌汚染、無届での危険物や指定可燃物の大量保管、等々。その後の審査では、このようなことは見逃せない不適合となり、指摘を受けるか、自発的に改善されているはずのものです。

事前訪問を担当しますと、サイトの状況が頭に浮かびますので、審査プログラムを作成する上でも、サイトツアーにどれだけの時間を配分すべきかも把握できます。事前訪問から担当しますと、現場の管理状態の変遷を見ることになり、一次審査、二次審査と訪問する度に現場が整備されていく状況が確認できますと、改善のためにお役に立てたことに喜びを感じることもあります。

順序が前後することもありますが、事前訪問の後にマニュアルが届きますと、次の文書審査に入ります。

MICリレーエッセイ㉙

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From 東京都世田谷区
小林 基比古
（こばやし もとひこ）

PROFILE

専門分野	ISO9001･ISO14001 - 建設業、その他の専門技術、製材業、木製品製造
経歴	株式会社綜建築研究所、MIC審査員（現職）

「見えない世界にようこそ。」

“ついに見つかってしまった！”「この本はなんなの・・」意図的に隠していたわけではない。「つい場所がないから・・」との説明に、二度大量の本の始末をさせられた経験をもつ妻は納得していない。今でも、本はできるだけ図書館で借りることにしている。

最近の本の中で最も記憶に残ったものは「痴呆老人は何を見ているか」、「動的均衡」である。いづれも生命に関する本で、前者は、生きるためにいかに記憶が重要であるかが書かれている。審査では、多くの体験を記憶として蓄積し、次の審査に活かしている。一方、記憶の刷り込みから柔軟に対応できないことも多く経験している。これは、明らかに記憶の偏りに原因がある。後者は、まことに生命とは何か、人体システムのすごさを知らされる一冊である。電子顕微鏡で見るミトコンドリアは、毒である酸素からエネルギーを作り出す源泉でありながら独自のDNAをもつ他の生命体であるという。年を取ると「時」が早く感じられる理由も書かれている。

審査は、人間の生命力を計る検診のようなものである。数値で結果は出ないものの、良いか悪いかは分かる。検診結果からどのように対応を取るかは、本人次第である。悪化した結果、命を落とすかもしれない。企業でいえば倒産である。審査員は、医者ではないので処方箋が出ないところが「肝」である。ISOには、薬局もないので薬も買えない。かくして、問題部分については、企業が自力で頑張るしかない。

連載「環境とISO14001」㉙

第29回 「生物多様性（3）」

MIC環境審査員顧問　郷古 宣昭　*Nobuaki Goko*

前回は喪失しつつある「生物多様性」に対する国際的取り組みについて述べましたが、今回はその続きとして名古屋で行われたCOP10の結果を説明します。

10月28日から名古屋で開催されていた生物多様性条約第10回締約国会議COP10は幕切れ寸前の10月30日未明に「愛知ターゲット」及び「名古屋議定書」「資金動員計画」の3つの議決を揃って採択しました。先進国と途上国の国益が激突し、合意が困難視される中でのギリギリの決着でした。

この3つの議決について簡単に説明します。

1. 愛知ターゲット（ポスト2010目標）

まず、中長期目標として「2050年までに生態系サービスを維持し、健全な地球を維持し、全ての人に必要な利益を提供する」としており、これはビジョン（展望）として取り扱われています。主題は2020年目標で、「**2020年までに生物多様性の損失を止める効果的で緊急な行動を取る**」としています。これは2020年には生物多様性の損失を止め、これを底として以降は回復を図ることを想定しています。2010年の目標が失敗に終わったことに対する反省から、抽象的な目標を避け、達成評価可能な具体的目標として5つの戦略と20の目標を設定しています。5つの戦略とは以下の通りです。

戦略A：各国は生物多様性を主流化する。（優先的に考慮する）
戦略B：生物多様性に悪影響を与える原因を減少させる。
戦略C：生態系、種及び遺伝子の多様性を積極的に守る。
戦略D：生物多様性の恩恵を全ての人に行き渡るよう強化する。
戦略E：全ての人が参加できる計画が立案される。

20の目標のうち、主なものは以下の通りです。

- 森林を含む**自然の生息地の消失速度を半減～ゼロ**にする。
- 陸に占める保護区の割合を現在の12%から**17%**に、海の保護区の割合を現在の1%から**10%**に拡大する。
- 魚類、無脊椎動物の資源の**過剰漁獲を避け**、生態系に対する漁業の影響を生態学的な安全限界の範囲内に抑える。
- 侵略的外来種とそれが定着する経路を特定し、優先度の高い種が制御される。

2. 資金導入計画

2020年目標達成のためにどれくらいの資金が要るのかを打ち出すことが出来ず、2012年までに見極めてCOP11で具体的資金計画を策定することが合意されました。

3. 遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する名古屋議定書

医薬品や食品のもとになる動植物など遺伝資源の利用については、2002年のヨハネスブルグサミットで「利益配分のための国際的制度の構築」が決定されたものの、資源保有国である途上国とそれを利用する先進国とで合意が得られないままCOP10まで引きずってきた難物でした。最後に提示された議長案はいくつかは途上国に有利に、またいくつかは先進国に有利に振り向けられ、合意が至難な点については曖昧にしたままでした。以下がその骨子です。

- 遺伝資源を利用する場合は**原産国の許可**を必要とする。
- 資源利用国は原産国側と**利益配分について個別契約**する。
- 各国は不正持ち出しを**監視する機関**を1つ以上設ける。

結局のところ今後の運用については、肝心な部分は当事者間契約となり、利益配分をいつまで遡及させるのか、派生品（元の有効成分をヒントに合成したもの）の取扱い等については言及がありません。

以上、3つの採択された議決は妥協の決着ではありましたが、国際社会が再び一丸となって地球環境問題へ取り組んでいくという意思を示したこと、まがりなりにも筋道が付けられたことで大きな意味をもつものです。

次回は生物多様性第4弾として「愛知ターゲット」をまとめた当事国日本はこれにどう取り組んでいくのか、それは企業活動にどのような影響を与えるのか等について考えてみることとします。

お客さまからのお便り

変化に対応、進化に挑戦

株式会社サンアイインターナショナル（ISO9001：2008認証登録）
代表取締役社長　三宅 雅彦

株式会社サンアイインターナショナルは、貴金属宝飾品製造・卸業として今年で設立24年目を迎えます。2007年に、顧客満足向上の為のシステム作りを目的にISO9001を取得しました。システム導入後は、P-D-C-AのC・Aが明確になり、従業員の意識改革にも繋がったと思っています。

今世界を揺るがす様々な経済危機、社会状況の変化は、宝飾業界にも影響を及ぼし、現在の国内市場規模は20年前のなんと三分の一まで落ち込んでしまいました。さらに近年のネット通販の伸長、大型量販店の参入等々、対象顧客の市場構成も変化しました。この予測不能・制御不能の変化というモンスターに対して、私どもは速やかにこれに倣い従い、学習する姿勢を持つことが大切だという経営方針で臨み、本業界においても堅実な伸長を遂げさせて頂いております。

「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのでもない。唯一生き残るのは、変化できるものである。」ダーウィンの進化論の一節ですが、まさに「適者生存」の結果こそが進化と解せるものと考えています。当社の企業理念「新たなる創造と繁栄への挑戦」を基に、新しい宝飾業界構築を目指し、社員一同、進化へのチャレンジャーとして社業に臨んでおります。

上）広島本社　下）神戸国際宝飾展出展

▶http://www.sanai.tv/

『安全』と『海洋環境保護』の実践で社会へ貢献

三洋海事株式会社（ISO9001：2008、ISO14001：2004 認証登録）
代表取締役社長　奥谷 俊介

三洋海事株式会社は、昭和32年にハーバータグ並びに、その関連事業を目的に設立以来、瀬戸内、伊勢湾の主要港を拠点とし、巨大船のエスコートや船舶の離着岸援助作業、沿岸曳航作業、危険物積載船の警戒作業など、幅広い曳船業を行っています。安全に確実に…あらゆる曳船作業を最新技術でささえるため自社船の強化・機器の改善、最新化を図り、時代の要望に添うようパワーアップを図ってまいりました。また、緊急時の出動要請や予定変更等にも即時対応できる緊密なネットワークを張りめぐらし、さらに防災安全を第一に、要員の技術向上に日々研鑽に努めています。今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

さて、当社はISO9001/14001を業務プロセスの基準と位置付け維持推進しておりますが、当初、この2つは個別に取得しました。MICでのEMS認証取得を機に、前年に他審査機関にて取得していたQMSもMICに変更しました。その後2009年5月に統合し、昨年その統合での更新審査を受けて第二段階に入ることになりました。更に仕事の質を高めて関係各位の期待に応え、他方、「安全」と「海洋環境保護」の実践で社会に貢献する経営方針を推し進めて参ります。

▶http://www.sanyo-kaiji.jp/

ちょっといっぷく

今年の干支は、辛卯（かのとう・しんぼう）。『辛』は十干の8番目にあたり、辛は“新しい”の意味もあることから草木が枯れて新しい世代が生まれようとする状態を、『卯』は“茂る”の意味から草木が地面を覆うようになった状態を表し、万物の繁栄を意味すると言われています。

この『辛』が意味する“新”しいの字は、漢文学・古代漢字学者の白川静氏によると、「辛」「木」「斤」に分かれるとのこと。『辛』は持ち手のついた鋭い針を表す象形文字で、古代中国ではこの「辛（はり）」は文身（入墨）のための針として使用、神聖な道具とされていました。親（先王）が亡くなり、新しく位牌を作るときにも、この「辛」を投げ針として投げて突き刺さった「木」を神木として選び、「斤」で切り出します。この儀式を表しているのが「新」の字で、新しく位牌を選ぶことから「あたらしい」の意味になったとのこと。そして、位牌を作った残りの木が「薪」、祭のときに「たきぎ」として利用されました。また、「辛」と「木」に「見」を加えると「親」の字になりますが、これは新しくできた位牌をじっと拝んでいる姿を表しているそうです。位牌は父母のものであることが多いため、そこから「おや」の意味が生まれました。ちなみに、「辛」で入墨をするときの痛みから「つらい」の意味が生まれ、それが味覚の意味にも広がって「からい」となったそうです。漢字の世界は奥深いですね。

今年は、ムーディーグループの創業100周年の年にあたり、これからの100年に向けた新しい世代の始まりでもあります。今年の十二支の『卯』＝うさぎは、その跳躍力から飛躍を、足の速さから何事もよい方向に速やかに進む象徴と言われているそうです。更なる躍進に向けて、進歩ある年にしたいと思っております。

皆様方にとりましても、新しい年が飛躍の1年となりますよう、心よりお祈りいたします。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース　9001/14001/18001　（2日間）

［開催地］　東京・大阪・富山・金沢・福井・札幌・新潟・他

［対象者］
- ●品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討している
- ●システムをより効果的に運用したい
- ●効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

- ISO9001　：IRCA認定審査員研修コース　（5日間）
- ISO14001：IRCA認定審査員研修コース　（5日間）

［開催地］　東京

［対象者］
- ●審査員の目で内部監査を行いたい
- ●内部監査グループのリーダーに任命された
- ●将来審査員を目指している

〜受講生からのお便り〜

ISO14001内部監査員コースを受講して

環境内部監査員コース（2010年5月）受講
ロイヤルコントロールズ株式会社 兵庫支店　山本 由美

弊社は、自動制御機器の専門商社として、「人を中心としたオートメーションで安心、快適、達成感を実現するとともに、地球環境に貢献する」azbil グループの理念を、製品・提案（サービス）にて日々お客様へ提供しております。商社である弊社は様々な業種のお客様と接する為、環境問題がいかに重要な課題であり、今後も追求する必要があるのを実感しております。省エネ事業などを中心に、製品を通してお客様へ満足頂けるように日々努力しております。

本社ではすでにISO14001を取得しておりますが、支店の取得に向けて、この度会社より任命を受けて受講させて頂きました。ISO14001については、当事務所にも必要な知識でありました。

私自身は事前の知識が無かったので最初は不安がありましたが、丁寧なご指導やグループワークなどのカリキュラムによりわかりやすく受講できました。今後は受講での学習を実践で生かして会社の業務を活かしたいと思います。

お世話になり有難うございました。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
http://www.moodygroup.co.jp

東京本社
〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-4-2
日本橋Nビル4F
TEL：(03) 3669-7408　FAX：(03) 3669-7410
E-mail：mi-certification@moodygroup.co.jp

MOODY INTERNATIONAL

大阪事務所
〒532-0003　大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
TEL：(06) 6150-0571　FAX：(06) 6150-0575
E-mail：mic-osaka@moodygroup.co.jp